整理番号	

リスの点検表（ＣＨＺタイプ）

製造番号		点検担当者		点検実施日	年　　月　　日

点検項目		点検方法	判定基準	判定		処置	
				定期	日常	修理	交換
1	走行性の良否	レールにリスを装着して上下移動させて走行具合を調べる	円滑に走行するか	□	□	○	
2	停止性の良否	レールにリスを装着して停止性を調べる	確実に停止するか	□	□	○	
3	本体各部の損傷の有無	目視により調べる	全体的な変形や著しい傷、打痕、腐食は無いか	□			○
4	テコ板動作の良否	テコ板の作動操作を行い、動作の良否を調べる	円滑に素早く作動するか	□		○	○
5	テコ板の損傷の有無	目視により調べる	著しい傷、変形およびメッキ剥離は無いか	□			○
※6	テコ板の摩耗	前ローラとテコ板の間に10円玉2枚（3．0mm）が入るかを調べる	隙間が3．0mm未満であるか	□			○
7	ローラの損傷の有無	目視により調べる	著しい傷や変形は無いか	□	□		○
8	ローラの回転の良否	ローラの回転操作を行い、回転の良否を調べる	円滑に回転するか	□		○	○
※9	ローラの摩耗	ローラと本体との隙間に10円玉(1.5mm)が入るかを調べる。	隙間が1．5mm未満であるか	□			○
10	バネの損傷、変形の有無	目視により調べる	著しい傷、変形および腐食は無いか	□			○
11	バネ受け軸の変形の有無	目視により調べる	変形は無いか	□	□		○
12	連接板の変形、損傷の有無	〃	著しい傷、変形は無いか、穴内側が平滑であるか	□			○
13	軸の変形、脱落の有無	〃	変形していないか、軸はあるか	□			○
14	軸止め部の固定の有無	〃	輪止めが正しく固定されているか	□	□		○
15	各部の泥・ゴミ・ペンキ等の付着の有無	〃	著しい付着は無いか	□	□	○	
16	連接板用ローラの損傷の有無	〃	脱落や著しい傷や割れは無いか	□			○
17	ガイドローラの摩耗	リス本体より高さが2mm以上あるかを調べる	直径が13mm以上あるか、著しい傷や割れは無いか	□			○
18	カラーの損傷の有無	目視により調べる	脱落や著しい傷や割れは無いか	□			○
※19	アタッチメントの変形、損傷の有無	〃	著しい傷、変形は無いか	□	□		○
※20	アタッチメント取付ボルトの緩み	〃	ボルトが緩んで無いか	□	□	増締めを行う	

・備考　日常点検、定期点検の□印に異常がなければ☑、異常がある場合は■でチェックする。

点検項目で※印番号は点検参考図参照。

Ver．1

点検表補足説明

①傷があると強度が低下します。著しい傷や打痕とは深さが基本的に1㎜以上のものを示し、ひびや割れについては目視で確認できるものは異常と判定します。

②変形は停止性能や走行性能を低下させます。目視で明らかに歪みや曲げが確認できるものは異常と判定します。

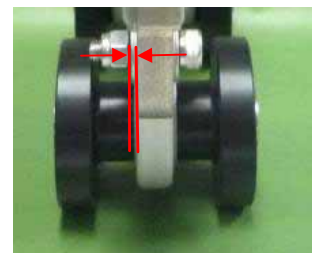
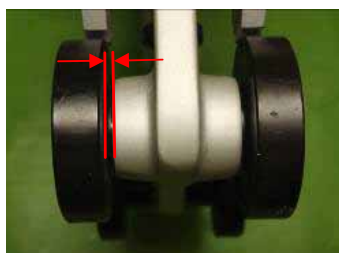
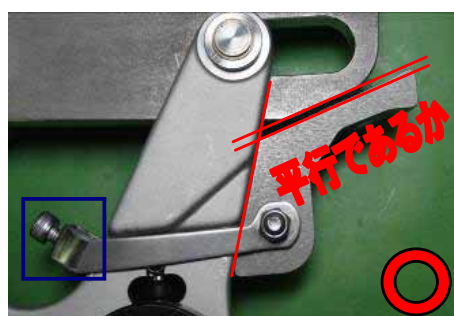
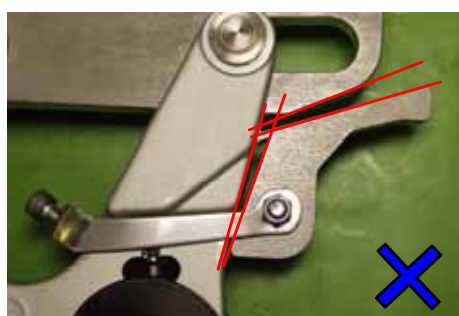
③泥、ゴミ、ペンキ等が可動部やばねに付着すると停止性能が低下しますし、腐食の原因ともなります。付着物が簡単に取り除けない場合は異常と判定します。

④ローラの傷や摩耗はレール内でのガタを大きくし、走行性能が低下します。また摩耗するとレールにリス本体が接触し、レールに傷を付ける恐れがあります。

⑤アタッチメントが変形したりボルトが緩むと、連接板の可動に支障をきたしたり連結した場合に停止機能を損なう恐れがあります。

⑥点検参考図

※6 テコ板の摩耗測定位置

※9 ローラの摩耗測定位置

※19,※20 アタッチメントの変形、損傷、ボルトの緩み

※アタッチメントのボルト(□部)は点検の際にガタつきがある場合は増締めを行ってください。
(標準トルク3N･mが目安です)

⑦各部の名称

キーロックロープ通し穴
連接板
カラー
テコ板
胴綱通し穴
連接板用ローラ(内側)
ばね受け軸
アタッチメント
ばね
ボルト
製造番号
SANWA KOKI
ガイドローラ
軸
本　体
ローラ
軸止め